

平成26年度 中学生の 「税についての作文」優秀作品紹介

全国納税貯蓄組合連合会と国税庁の共催により、中学生の税についての作文の募集事業が毎年行われています。この事業は、租税教育推進活動の一環として行われ、今年度の表彰式が11月8日(土)に玉名市で催されました。

48回目となる今回は、全国で約615,000編、荒尾玉名地域の中学校16校からは、2,187編の応募があり、和水町より5人の生徒が受賞されました。中でも、一丸詩織さんが受賞した全国納税貯蓄組合連合会会長賞は全国で40人、熊本国税局管内(熊本、大分、宮崎、鹿児島)で2人しか受賞されない素晴らしい賞です。

また、当日は学校表彰も行われ、三加和中学校へ熊本国税局長から感謝状が送られました

全国納税貯蓄組合連合会会長賞	一丸	詩織	(三加和中学校)	3年)
南九州納税貯蓄組合連合会優秀賞	渕上	紀香	(三加和中学校)	2年)
和水町長賞	前田	愛実	(菊水中学校)	3年)
和水町教育長賞	伊藤	美鈴	(三加和中学校)	1年)
南九州税理士会玉名支部支部長賞	田中	悠花	(菊水中学校)	3年)

※12月号では、全国納税貯蓄組合連合会長賞、南九州納税貯蓄組合連合会優秀賞、和水町長賞の3編を掲載しております。他の2編については、1月号に掲載予定です。

ひいおはあちゃんかこと 学んだこと

全國統一賃貸書総合選合会
会長賞



私のひいおばあちゃんはおととし、九十二歳で亡くなつた。
ひいおばあちゃんは高齢だったから体も弱く、家で寝たきりだつた。でも、私が来るといつも窓から笑顔で名前を呼んでくれる。
ある日、祖父母たちがひいおばあちゃんを介護施設に入れようと言つた。私は、ひいおばあちゃんと離れるのは嫌だし、本人だって、きっと施設なんか嫌だうと思つたから反対だつた。
でも、確かに介護が大変なのは分かつっていた。ひいおばあちゃんをお風呂に入れ、トイレに行かせ、ご飯を食べさせ……その時の世話をする人達はきつそな様子だった。特によく世話をしている祖父母たちにも自分の仕事など、他にやらなければならぬことがある、それでも毎日お世話をしていた。ひいおばあちゃんの子供は多かつたけど地元にいるのは一人だけ。そんな間にも電話は進み、とうとうひいおばあちゃんは施設に入った。
それからというもの予想通り、ひいお

「おばあちゃんには会わなくなつた。施設は遠いし時間もない。だけど、母がひいおばあちゃんの所に行つた時、母たちにも少し余裕ができたみたいで楽しそうだつた。

それから一年くらいたつて、ひいおばあちゃんは施設で帰らぬ人となつた。

学校で税の勉強をしている時、そんな亡くなつたひいおばあちゃんが入つてた介護施設のことを思い出した。私は今まで税なんて払いたくないとかめんどうだと思つていた。だけど、ひいおばあちゃんを最後までしつかりお世話し、笑顔にさせてくれる介護施設の一部には税が使われていると勉強してからは、税を払うのが心なしか苦ではなくなつた。それと共に、税がなくなると色々な物が不便になる事も学んだ。

介護施設がなかつたら、ひいおばあちゃんはもつと早くに亡くなつてたかもしれないしお世話をしていた祖父母はもつときつい思いをしなければいけなかつたかもしれない。

私は今まで税のことを軽く考えていたし、まだ子どもの私達がどうして払わなければいけないんだろうとばかり思つていた。しかしそんな私の考えは間違つていると生活の中で教えてくれた。生きしていくうえで、人が笑顔になるため、命を守るために必要なのだと学ぶことができた。

みなさんは税のことをどう思つているだろうか。やっぱり嫌だと思ってる人は多いだろう。けれども本当にそうだろうか。きっと自分の大切な人が危険な目にあつたり、いなくなつたりした時、気づくことができるだろう、税は私たちの幸せを守るものだと。

私たちと税

たとへん
税とひと



町では、高校生までは医療費を無料にし、若い人を集めるという対策をとっている。私は、中学生になるまで、医療費がないのはあたりまえだと思っていて、税金のおかげで無料で病院で診察してもらえるということを知らなかつた。

先日、授業で租税教室があつた。DVDで、もし「税金」がなかつたらどうなるか、税金の大切さを学んだ。もし税金がなかつたら、でこぼこ道のため安全でなかつたり、消防署や警察を呼ぶのにもお金がかかり、簡単に呼べないらしい。また、学校に行けずにな働かなくてはいけなくなる子まででてきたり、年金がないため老後まで働くことになるそうだ。これまで私は、なぜ税金なんてものがあるのだろう、税金がなくなればいいのに、と思つていた。しかし、租税教室を通してやつと税が必要な理由、税の役割について分かつた。税は私たちの暮らしを守り、

環境にすることも大事だと思う。他にも、住みよい街づくりのための建設整備に使われる土木費、農林業や水産業の振興を図るための農林水産業費という使い道があることも分かった。税金は、私たちの生活を支える大切なものなんだなと思った。

現在、少子高齢化が進み、国民一人あたりの経済的負担が大きくなっている。しかし、納税は私達国民の義務である。少子化を防ぐため、女性が子育てしやすい環境にし、未来の納税者を増やしていくべきだと思う。それだけでなく、小・中学校の授業料や高校生まで医療費が無料という恵まれた環境に私たちはあるので、それを無駄にせずに今しっかりと学習して、将来きちんと納税できる収入をもつ、立派な納税者にならなければならない。

税あつての 暮らしに感謝

南九州紅葉貯蓄組合連合会
優秀賞



口与林二年の夏和に所属している部活のバレーボールを精一杯がんばっていた。最後の大会を目前にひかえ、三年生と一緒にプレーできる時間を一秒一秒大切に、そして一生懸命やつていた。そんなある日の練習試合で、ブロックに飛び、着地した瞬間、尋常でない痛みが私を襲つた。その場に座っているだけで痛い。当然立つことなどできなかつた。

次の日、病院へ行くと韌帯損傷だつた。悔しさや申し分けなさとともに、松葉杖生活が始まつた。今までの普通の生活が普通ではなくなつた。日常的に使う階段や少しの段差でも行き来が困難になつた。

二週間の松葉杖生活。そして、約三ヶ月に渡つて病院にも通い続けた。私は両親にも申し訳ない気持ちがあつた。とてもたくさんのお金が必要なのだろうと思つたのだ。そんなある日、母が何か書いていた。その後、病院に行き手続きをしていた。その内容を家

鐵板などはどこから來ていいのだろう。誰が払ってくれているのだろうと。それで周りの大人の人聞くと全員が「ほんと税金たい。」と答えられた。私は啞然とした。こんなに多額のお金もほんとが税金だったことが信じられなかつた。

私は、税金の使い道がこんなにも多くあることを初めて知つた。他にも私の知らないところで税金が役立つていいのだろう。普通の生活が普通に送れているのも税金に支えられているんだなと思った。今も誰かが国のために、みんなのために税金を納めている。そのことを忘れず日々の生活に感謝したい。そして今は消費税だけだと思うが、これからは納める税金の種類もどんどん増えていくだろう。その時は、きちんと納めていきたい。いつの日か社会のため、日々の楽しい生活のために貢献できる人になりたい。

菊水中学校

菊水中学校 三年 前田 愛実



町では、高校生までは医療費を無料にし、若い人を集めるという対策をとっている。私は、中学生になるまで、医療費がないのはあたりまえだと思っていて、税金のおかげで無料で病院で診察してもらえるということを知らなかつた。

先日、授業で租税教室があつた。DVDで、もし「税金」がなかつたらどうなるか、税金の大切さを学んだ。もし税金がなかつたら、でこぼこ道のため安全でなかつたり、消防署や警察を呼ぶのにもお金がかかり、簡単に呼べないらしい。また、学校に行けずにな働くかなくてはいけなくなる子まででできたり、年金がないため老後まで働くことになるそうだ。これまで私は、なぜ税金なんてものがあるのだろう、税金がなくなければいいのに、と思つていた。しかし、租税教室を通してやつと税が必要な理由、税の役割について分かつた。税は私たちの暮らしを守り、

環境にすることも大事だと思う。他にも、住みよい街づくりのための建設整備に使われる土木費、農林業や水産業の振興を図るための農林水産業費という使い道があることも分かった。税金は、私たちの生活を支える大切なものなんだなと思った。

現在、少子高齢化が進み、国民一人あたりの経済的負担が大きくなっている。しかし、納税は私達国民の義務である。少子化を防ぐため、女性が子育てしやすい環境にし、未来の納税者を増やしていくべきだと思う。それだけでなく、小・中学校の授業料や高校生まで医療費が無料という恵まれた環境に私たちはあるので、それを無駄にせずに今しっかりと学習して、将来きちんと納税できる収入をもつ、立派な納税者にならなければならない。

口与林二年の夏和に所属している部活のバレーボールを精一杯がんばっていた。最後の大会を目前にひかえ、三年生と一緒にプレーできる時間を一秒一秒大切に、そして一生懸命やつていた。そんなある日の練習試合で、ブロックに飛び、着地した瞬間、尋常でない痛みが私を襲つた。その場に座っているだけで痛い。当然立つことなどできなかつた。

次の日、病院へ行くと韌帯損傷だつた。悔しさや申し分けなさとともに、松葉杖生活が始まつた。今までの普通の生活が普通ではなくなつた。日常的に使う階段や少しの段差でも行き来が困難になつた。

二週間の松葉杖生活。そして、約三ヶ月に渡つて病院にも通い続けた。私は両親にも申し訳ない気持ちがあつた。とてもたくさんのお金が必要なのだろうと思つたのだ。そんなある日、母が何か書いていた。その後、病院に行き手続きをしていた。その内容を家

鐵板などはどこから來ていいのだろう。誰が払ってくれているのだろうと。それで周りの大人の人聞くと全員が「ほんと税金たい。」と答えられた。私は啞然とした。こんなに多額のお金もほんとが税金だったことが信じられなかつた。

私は、税金の使い道がこんなにも多くあることを初めて知つた。他にも私の知らないところで税金が役立つていいのだろう。普通の生活が普通に送れているのも税金に支えられているんだなと思った。今も誰かが国のために、みんなのために税金を納めている。そのことを忘れず日々の生活に感謝したい。そして今は消費税だけだと思うが、これからは納める税金の種類もどんどん増えていくだろう。その時は、きちんと納めていきたい。いつの日か社会のため、日々の楽しい生活のために貢献できる人になりたい。